

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (四国)	◎	*	*
	○	商店街（代表者）	・新型コロナウイルス感染症に対する政府の対策が前向きに進んでおり、客の行動が活発になってきている。国内で治療薬が認可されれば、景気は更に上向くと思う。
	○	百貨店（販売促進）	・新型コロナウイルス感染症の状況が少し落ち着くと予想する。
	○	コンビニ（店長）	・物価上昇の影響で競合店との価格差が縮まり、来客数の増加につながると推測する。
	○	衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が高止まりしており、しばらくこの状況が続くと思うが、客の動きは鈍化していないため、いずれ景気は回復すると思う。
	○	衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルスの感染再拡大が続いているが、秋の衣替えシーズンとなるため売上増加を期待している。
	○	乗用車販売店（役員）	・9月以降メーカーの生産が回復すると予想されるため、年度末にかけて景気は回復すると予想する。
	○	その他専門店〔酒〕（経営者）	・酒類は値上げする前に買いためする客が多く、ここ数か月は売上が安定すると思う。
	○	一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着くと予想する。
	○	旅行代理店（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、修学旅行以外の団体旅行が動き出すことを期待している。
	○	タクシー運転手	・新型コロナウイルスの新規感染者数は増加傾向にあるが、秋の遍路客が戻ってくることを期待している。
	○	通信会社（営業部長）	・新型コロナウイルスの感染第7波が収まれば景気は回復すると思う。
	○	通信会社（営業担当）	・客の動きが回復しており、年末商戦に向けて期待している。
	○	観光遊園地（職員）	・新型コロナウイルスの感染第7波が収束に向かい、秋の行楽シーズンになれば観光客が増加すると思う。
	□	商店街（事務局長）	・行動制限がなくなったことでリベンジ消費を期待していたが、急激な物価高となってしまったため、しばらくは全体的に消費意欲が弱いまま推移すると思う。
	□	一般小売店〔文具店〕（経営者）	・お盆の時期に人流が活発化したことにより、新型コロナウイルス感染症が再拡大しており、しばらくは現状が続くと予想する。
	□	一般小売店〔生花〕（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加傾向にあり、引き続き来客数が減少したまま推移すると予想する。
	□	百貨店（営業統括担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数は高止まりのままではあるが、来客数に大きな変化はない。
	□	スーパー（店長）	・新型コロナウイルスの感染状況次第のため、先行きが見通せない。
	□	スーパー（企画担当）	・引き続き商品の値上げによる買上単価の上昇は続くと思う。また、値上げ前の買いためも今の傾向が続くと予想する。
	□	コンビニ（商品担当）	・新型コロナウイルス感染症に関する行動制限はなくなったが、電気代や燃料代の高騰の影響により、景況感是不変。
	□	衣料品専門店（営業責任者）	・新型コロナウイルスの感染状況が収束傾向に向かわなければ、景気の回復はまだ遠いと思う。
	□	家電量販店（店員）	・今後も継続的な値上げが予想されるため、客が本当に必要な物しか購入しない傾向が続くと思う。
	□	家電量販店（副店長）	・物価高騰による消費の冷え込みは続いており、しばらくこの状況は続くと思われる。
	□	乗用車販売業（営業担当）	・半導体不足が早期に解消することは困難であるため、状況は変わらないと思う。
	□	都市型ホテル（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況に左右され、来客数の動向が読みづらい。
	□	タクシー運転手	・新型コロナウイルスの感染状況次第である。
□	通信会社（社員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が高止まりしており、活発な活動ができない状況が続いている。	
□	通信会社（支店長）	・ウクライナ情勢の長期化に伴い、関連商品の値上げが続いている。	
□	美容室（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況次第である。	

	□	設計事務所（所長）	・大手企業を中心としてSDGsやカーボンニュートラルに対する投資を進める企業が増加しているが、先行きは不透明である。
	▲	一般小売店〔酒〕（販売担当）	・10月の酒類値上げ前に消費者の買だめ傾向が強まり、一時的に売上は増加するが、その後は景気が悪化すると予想する。
	▲	スーパー（店長）	・今後も値上げが続くことで、客の購買意欲が低下し、来客数の減少につながると予想する。
	▲	スーパー（人事）	・急激な円安の進行や燃料費の高騰、またそれに起因する物価上昇等の不安要素が大きく、新型コロナウイルス感染症が再拡大しており、景気が回復する要因がない。
	▲	スーパー（財務担当）	・更なる値上げで販売数量が落ち込むと思う。
	▲	コンビニ（店長）	・お盆明け頃から来客数がやや減少しており、今後もこの傾向は続く予想する。
	▲	コンビニ（総務）	・お盆に行動制限がなかった分、その反動として新型コロナウイルスの新規感染者数が増加しており、景気は再び悪化すると予想する。
	▲	乗用車販売店（従業員）	・メーカーの生産の遅れが解消されない限り回復しない。長納期化などにより客の購買意欲も下がってきていると感じる。
	▲	乗用車販売店（従業員）	・新型コロナウイルス感染症の再拡大により、社員の勤怠にも影響しており対応に苦勞をしている会社も多いと聞くため、先行きは不透明である。
	▲	その他小売〔ショッピングセンター〕（総務部担当部長）	・直近の売上が減少傾向で推移している。
	▲	観光型旅館（経営者）	・新型コロナウイルスの感染第7波の収束が遅れ、全国旅行支援の開始が更にずれ込むと予想する。このままの状況では夏休みのような需要回復は望めず、景気は悪化すると思う。
	▲	競輪競馬（マネージャー）	・新型コロナウイルスの感染第7波の影響が長引き、更に物価高が続くことで、客の遊興費が減少すると予想する。
	▲	美容室（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加傾向にあり、しばらく現状が続くことで景気が悪化すると思う。
	×	商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの感染拡大状況によって売上が左右されるため、経営者にとって厳しい状態が続いている。秋冬のイベントも準備しているが、無事開催できるか先行きに対する不安を抱えている。
	×	商店街（代表者）	・ウクライナ情勢の影響より物流が停滞していることが、物価上昇につながっている。科学技術の発展や生活様式の変化により、新型コロナウイルス感染症はある程度防げるようになったが、ロシアとウクライナの戦争が収束しない限り、景気の回復は見込めない。
	×	スーパー（統括担当）	・光熱費の高騰に加え、取引先から商品値上げの要請もあり、今後景気は悪化すると予想する。
	×	衣料品専門店（経営者）	・物価上昇の影響による買い控えが今後も続くと思う。
企業 動向 関連 (四国)	◎	—	—
	○	電気機械器具製造業（経営者）	・バイオマスによるカーボンニュートラルの取組を進めているが、今までの研究成果がようやく結果として表れてきており、努力次第では状況は良くなると思う。
	□	繊維工業（経営者）	・原材料価格高騰により、今後は仕入価格が7～8割高くなった綿糸を使用しなければいけない状況である。綿糸以外にも光熱費や運搬費、その他副資材の値上げも続いており採算は悪化する見込みである。最近の米国の金利上昇やパキスタンでの洪水による綿花収穫不足等、材料費高騰が一段と進むことが予測され、先行きは不透明である。
	□	パルプ・紙・紙加工品製造業（経理）	・新型コロナウイルス感染症の影響で除菌や掃除用のウェットクリーナーの需要は多いが、同業他社の供給も多いため売上は横ばいである。
	□	化学工業（所長）	・新型コロナウイルス感染症の収束時期が不透明であり、今後が見通せない。
	□	電気機械器具製造業（経理）	・ウクライナ情勢の長期化及び円安基調による物価高の継続に加え、新型コロナウイルスの感染第7波の到来もあり、先行きは不透明である。

	□	建設業（経営者）	・公共事業予算の執行及び受発注については堅調に推移している。一方、新型コロナウイルスの感染拡大状況や行動制限の有無等によって景気は左右されるため、先行きは不透明である。
	□	建設業（経営者）	・年末まで余り状況は変わらないと思う。
	□	輸送業（経営者）	・ウクライナ情勢次第である。
	□	輸送業（営業）	・新型コロナウイルスの第7波による感染拡大が収束に向かわない限り、景気の回復は見込めない。
	□	輸送業（経理）	・海外向けの輸出入計画は堅調に推移しているが、国内向けは依然として低調なままである。
	□	通信業（総務担当）	・新型コロナウイルスの新規感染症数の急増により、社外イベントの自粛や運営方法の見直しが要請される可能性が高まっており、見通しが立てづらい。
	□	通信業（企画・売上管理）	・良くなる要素は見当たらないが、悪くなる要素もないため、現状が続くと予想する。
	□	広告代理店（経営者）	・新型コロナウイルスの感染第7波の影響が続いており、客先のイベントや販売促進活動の復活が予想よりも遅くなっているため、しばらく状況は変わらないと予想する。
	▲	木材木製品製造業（営業部長）	・大手住宅メーカーが材料価格高騰のため販売価格を改定し始めており、住宅の契約者数が減少している。
	▲	一般機械器具製造業（経理担当）	・足元では世界的な金融引締めによる景気後退や新型コロナウイルスの感染急拡大等の懸念があり、先行きの不透明感が強まっている。
	▲	金融業（副支店長）	・新型コロナウイルスの感染再拡大やウクライナ情勢、天候不順、急速な円安等により資源価格の高騰や物流コストの増加が懸念され、景気が下振れすると予想する。
	×	農林水産業（職員）	・新型コロナウイルス感染症の収束時期が見通せず、秋には日販品を中心に更なる値上げが予定されている。青果物は、米余りのなかでも小売価格は余り下がらないことを例に、量販店の利益商材化が顕著であり、今後もこの傾向が強まることが想定されることから、野菜の卸売価格は厳しさが増す見込みである。
	×	食料品製造業（経営者）	・様々な原材料仕入価格が高騰しており、10月から製品価格へ転嫁するため、売上高及び販売数量が減少すると予想する。
	×	鉄鋼業（総務部長）	・原材料価格の高止まりや価格交渉の遅れにより、収益状況は悪化しており、回復のめどが立っていない。また、電気料金の燃料調整費の上限撤廃により、更に収益環境は悪化する見込みである。
	×	税理士事務所	・新型コロナウイルス感染症や物価上昇の影響で景気は悪化すると予想する。
雇用 関連 (四国)	◎	—	—
	○	求人情報誌製作会社（従業員）	・異動の時期となるため、求人数が増加すると予想する。
	□	人材派遣会社（営業担当）	・求人数の状況に大きな変化はない。
	□	学校 [大学]（就職担当）	・企業の手不足感は余り変わらない。
	▲	求人情報誌（営業）	・景気の停滞感から転職の動きが鈍く、企業の手不足が解消される見込みが低い。
	▲	新聞社 [求人広告]（担当者）	・物価の上昇により、景気が悪化すると思う。
	▲	職業安定所（求人開発）	・この数か月増加していた宿泊業や飲食サービス業の求人数が前月比で大幅に減少しており、今後は他の産業にも影響が生じると予想する。
	×	—	—